

ケイセイマサキ建設株式会社が園児に雪のブロック提供

ケイセイマサキ建設株式会社(新冠町)は2月4日、こども園つみきの中庭に大小3基の雪のブロックを作って園児の遊び場を提供しました。園児たちは、雪が固まるのを待って2月12日に雪遊びを楽しみました。

雪のブロックの提供は、今回が初めて。園児たちにコロナ禍のストレスを発散してもらおうと提供しました。こども園周辺の雪を小型重機2台で集め、3つの雪のブロックを作りました。正木健太社長は「少しでも気分を変えて喜んでもらえたらうれしいです」と話しました。



雪のブロックで元気に遊ぶ園児たち

苫小牧工業高等専門学校と包括連携協定を締結



オンライン中継で協定書を掲げる小林校長(中央)と宮坂町長

町は2月19日、総合福祉センターで独立行政法人国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校(以下、苫小牧高専)と包括連携協定を締結しました。

今後、地域に密着したものづくり産業の振興や学術研究の振興、まちづくりの推進などで協力しながら、相互発展を目指します。

協定の締結は、町総合福祉センターと苫小牧高専をオンラインで結んで行われました。締結を終えた宮坂町長は「地域の潜在力をさらに掘り起こすため、大きな貢献に期待したい」、小林幸徳校長も「人材育成に加え、工業分野で地域をけん引していきたい」と語り、さらに相互協力を確認しました。

一般社団法人日本ムービングハウス協会と包括連携協定・災害時の協定締結



オンライン中継で協定書を掲げる佐々木代表理事(中央)と宮坂町長

町と一般社団法人日本ムービングハウス協会(千歳市)は2月19日、包括連携協定と災害時等における応急仮設住宅の建設に関する協定を結びました。

ムービングハウスは、平成30年から災害救助法に基づく応急仮設住宅として採用された移動式木造住宅です。胆振東部地震でも、5連結したムービングハウスを厚真中央小学校の敷地内に設置し、避難者の憩いの場として活用しました。

協定では、地域の特性を生かしたまちづくりや教育支援など6項目に加え、防災や災害対策などに関する事項も盛り込まれました。

協定締結は、総合福祉センターで行われ、同協会の佐々木信博代表理事がオンラインで参加して文書を交わしました。宮坂町長は「移動でき、住み心地の良いハウスの特性を生かし、町としても活用したい」と話し、佐々木代表理事は「次世代に向けた復興・発展のため、協定の取り組みを通して会員と共に協力したい」と語りました。

町防災アドバイザーで、東北大学災害科学国際研究所の定池祐季助教が1月22日、厚真高校で全校生を対象に防災授業を行いました。奥尻町で北海道南西沖地震(平成5年)などを経験した定池さんは、体験談を交えて生徒に防災の心構えを説きました。

テーマは「自ら備える、周りを助ける」。グループ討議では、チェックシートを使って自宅での備蓄品の状況や生徒の主体性についても話し合いました。

生徒たちは、自宅で水や缶詰を備蓄していることやラジオなどを入れた非常用のバックを準備しているなどと報告。定池さんは「熊本地震では、地元の中・高校生が支援物資を配給して地域の力になりました。日ごろから創造力や調整力、行動力を意識することが大切です」とアドバイスしました。

町防災アドバイザーの定池祐季さんが厚真高校で防災授業



グループ討議で生徒たちにアドバイスする定池さん

日新製薬株式会社が厚真産ハスカップの新飲料発表



新商品を手に記念撮影する関係者たち

町と日新製薬株式会社(滋賀県甲賀市)は2月22日、厚真産ハスカップを原料にした清涼飲料水「元気あつまる!ハスカップドリンク」を発表しました。ふるさと納税の返礼品にも活用する予定で、厚真ブランドとしてPRします。

清涼飲料水は、一昨年6月に両者で締結した厚真産ハスカップブランド化連携に関する協定に基づいて商品化されました。50ml入りで、ビタミンB₂やビタミンB₆、ローヤルゼリーを配合し、ハスカップの上品な香りとはほどよい酸味、甘みが特徴です。

発表は、総合福祉センターで行われ、宮坂町長や町観光大使の中村峰夫さん、JAとまこまい広域厚真支所の浅野真人支所長、町ハスカップ部会の長谷誠良会長、厚真産ハスカップブランド化推進協議会の山口善紀会長たちが出席し、同社の大橋淳一取締役会長らがオンラインで参加しました。

大橋会長は「作付け面積日本一の厚真産ハスカップを商品として提供するために開発しました」とあいさつ。宮坂町長は「期待以上のこの商品を、復旧・復興につなげたい」と話しました。町内の店舗などで1本540円(希望小売価格、消費税込み)で販売しています。

第41回町小中学校スピードスケート記録会

町スピードスケート協会主催の第41回町小中学校スピードスケート記録会が2月6日、町民スケートリンクで開かれ、児童・生徒約50人が力強く滑走しました。

競技は、学年別、距離別で行われ、小学校対抗の2000mリレーも行われました。子どもたちは、号砲を合図に一齐にスタート。リンクサイドの観客は、身を乗り出して拍手に力を込め、選手の健闘をたたえました。表彰式でメダルを手に記念撮影する親子の姿も見られました。



真剣な表情でゴールを目指す児童たち